



新年あけましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

旧年中は会務運営に多大なるご支援、ご指導、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス(SARS-COV2)による新型肺炎(COVID-19)の蔓延に伴い、埼玉県においても緊急事態宣言が何度も発令され、多くの我慢を強いられた年となったのではないのでしょうか。8月には1日の新規感染者が連日2万5千人を超える日が続き、会員各位におかれましても検体採取、PCR検査、抗原検査など新型コロナウイルスに追われる日々が続いたことと察します。当初、欧米諸国に比べて出遅れ感があったワクチン接種も医療従事者を皮切りに高齢者から若者へと接種が拡大され77%を超えました。ワクチン効果・その他の要因により感染者数は劇的に減少し落ち着きを取り戻しつつありますが、新たな変異株の出現など、まだまだ予断を許さない状況であります。

会務においては各種研修会がオンデマンドでの開催となり、第49回埼玉県医学検査学会は埼臨技初となる現地開催とオンデマンドのハイブリッド開催となりました。新たな学会のあり方の一つを提供できたのではないかと思います。来年は第50回の節目の学会となります。記念式典も開催する予定です。諸先輩方から脈々と受け継がれてきた埼臨技学会の歴史の重みを感じつつ更に充実した学会となる試金石となるような学会にしたいと考えています。

第204回通常国会において、「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律(令和3年法律第49号)」が成立され、令和3年10月1日から施行されました。タスク・シフト/シェアとして追加された業務を行う場合は、厚生労働大臣が指定する研修を受けなければなりません。コロナ禍であることから講習会の基礎講義については日臨技のホームページからオンデマンドで受講を行い、実技講習については各都道府県技師会が担当し行うことになりました。埼玉県でも昨年11月より実技講習を開始いたしましたが、実技講習は60人/回しか受講することができず会員の皆さま方におかれましては申し込みがしづらい状況が起こりうるかもしれません。全会員ひいては全臨床検査技師の受講を希望します。

昨年は東日本大震災から10年、熊本地震から5年という月日が経ちました。まだ多くの傷跡が残っており復興道半ばです。また静岡県熱海市で発生した土石流では多くの方が犠牲となりました。昨年は埼玉県において大きな災害は起こりませんでした。いつどこでも起こりうる災害を支援するために、臨床検査技師向け災害に関連した研修会を検討していく所存です。

昨年の7月から9月には、オリンピック・パラリンピックが東京を中心に開催され、画面越しにアスリートの躍動に多くの勇気と元気と感動をもらいました。2022年は寅年で壬寅(みずのえとら)の年です。「決断力と才知」の象徴としての意味があり、壬寅は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年と言われています。私たち臨床検査技師も更なる飛躍の年としたいものです。

執行部一同、本年も会員、賛助会員、地域のための技師会であるよう努力してまいりますので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

新しい年が、皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。